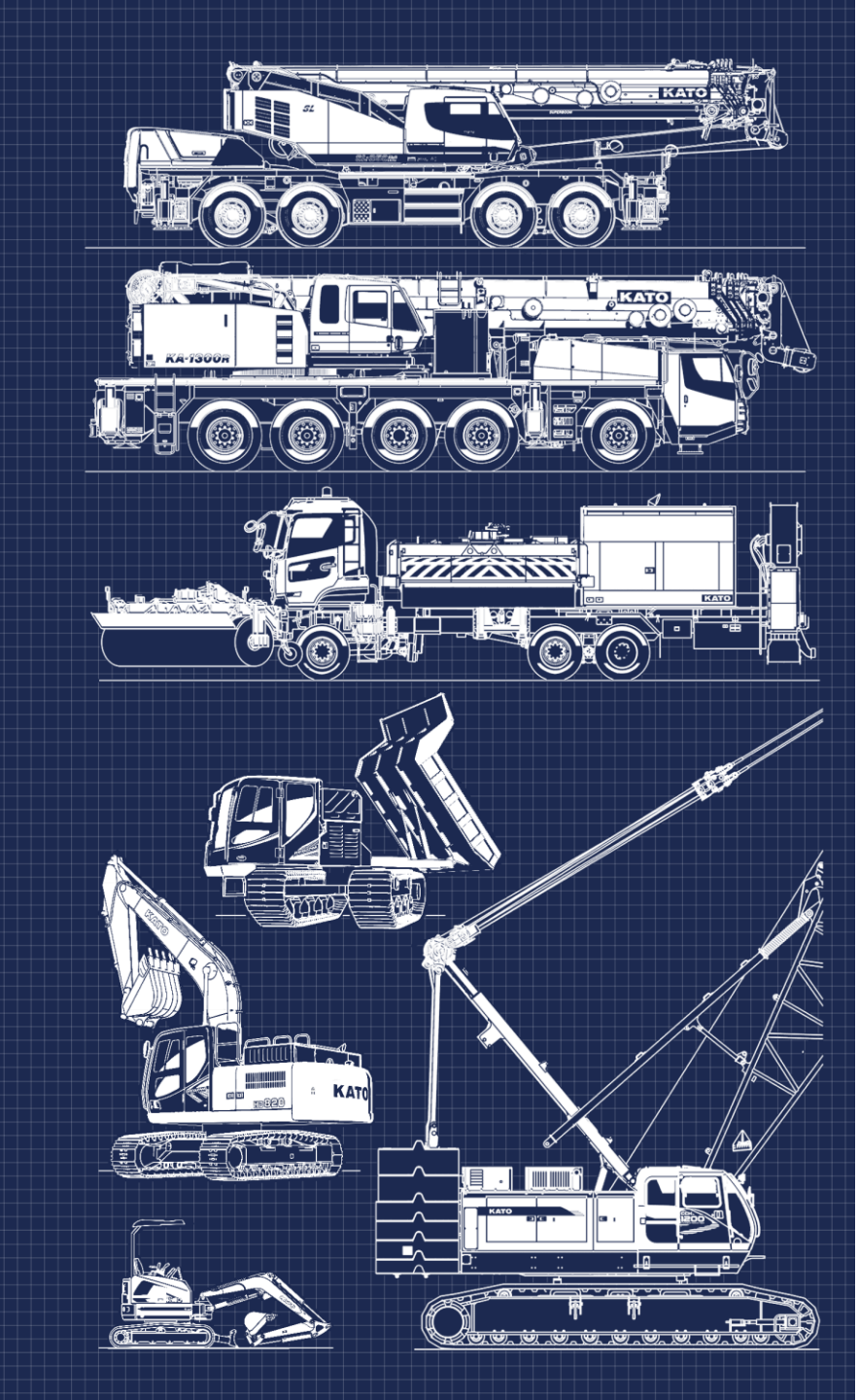


2027年3月期(4-9月)

決算説明資料

2026年11月12日

KATO 株式会社 加藤製作所

目次

KATO
進化の奥の更なる真価へ

1.セグメント(製造拠点)別状況	P.2
2.業績サマリー	P.3～4
3.連結損益計算書	P.5
4.営業損益の増減分析	P.6
5.連結貸借対照表	P.7
6.連結キャッシュフロー計算書	P.8
7.仕向け地別売上高推移(日本除く)	P.9～10
8.主要品目別売上高推移	P.11
9.主要品目紹介	P.12
10. FY27通期連結業績予想	P.13
11. TOPICS	P.14～15

セグメント(製造拠点)別状況

KATO
進化の奥の更なる真価へ

※カッコ内は前年同期比増減率

日本セグメント

売上高
22,914百万円 (△6.6%) ※

営業利益
△944百万円 (-%)

製造拠点	仕向け地	主要製品
▪茨城 ▪群馬	▪日本 ▪米国 ▪欧州(内部取引) ▪東南アジア ▪台湾 ▪中近東 など	▪建設用クレーン ▪油圧ショベル等

TOPICS 米国(輸出先)

- 米国向け油圧ショベルは関税影響が一段落したことに加え、民間投資需要が回復

TOPICS 日本

- 日本の建機需要の弱含みが継続

欧州セグメント

売上高
2,257百万円 (+21.7%)※

営業利益
△39百万円 (-%)

製造拠点	仕向け地	主要製品
▪イタリア	▪EU諸国など	▪油圧ショベル等

TOPICS イタリア

- 欧州主要市場での需要が回復傾向

中国及びその他セグメント

売上高
5百万円 (△99.4%) ※

営業利益
△40百万円 (-%)

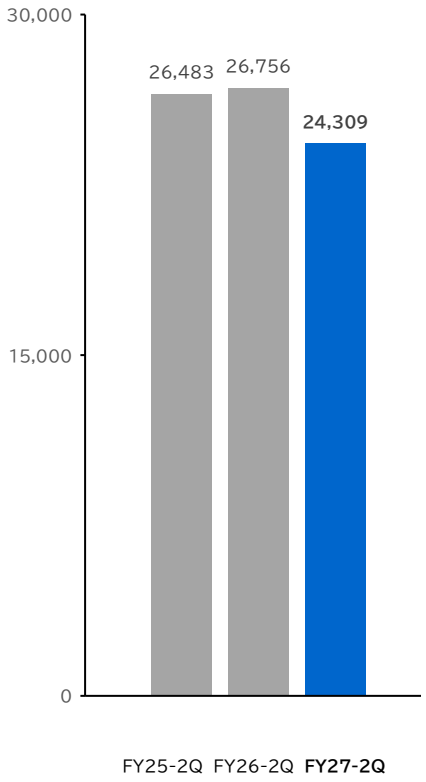
製造拠点	仕向け地	主要製品
▪なし	▪中国など	▪油圧ショベル等

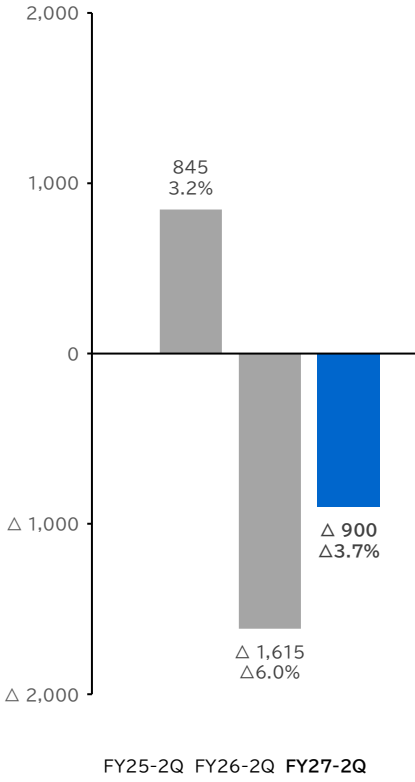
連結業績サマリー

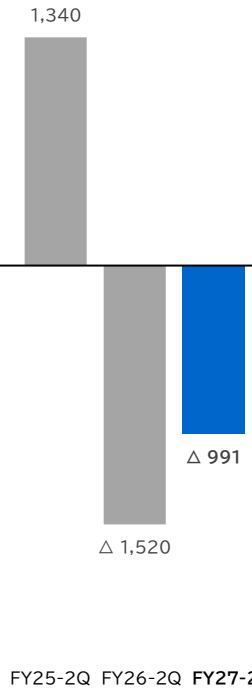
KATO
進化の奥の更なる真価へ

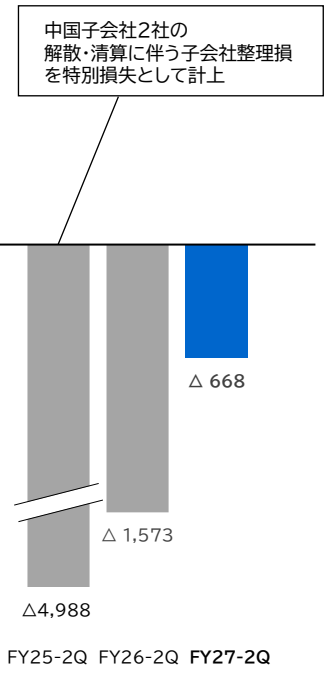
（単位：百万円）

売上高	営業利益・率	経常利益	親会社株主 当期純利益
24,309	△900	△991	△668
前年同期比 （↘ △9.1%）	前年同期比 （↗ -%）	前年同期比 （↗ -%）	前年同期比 （↗ -%）









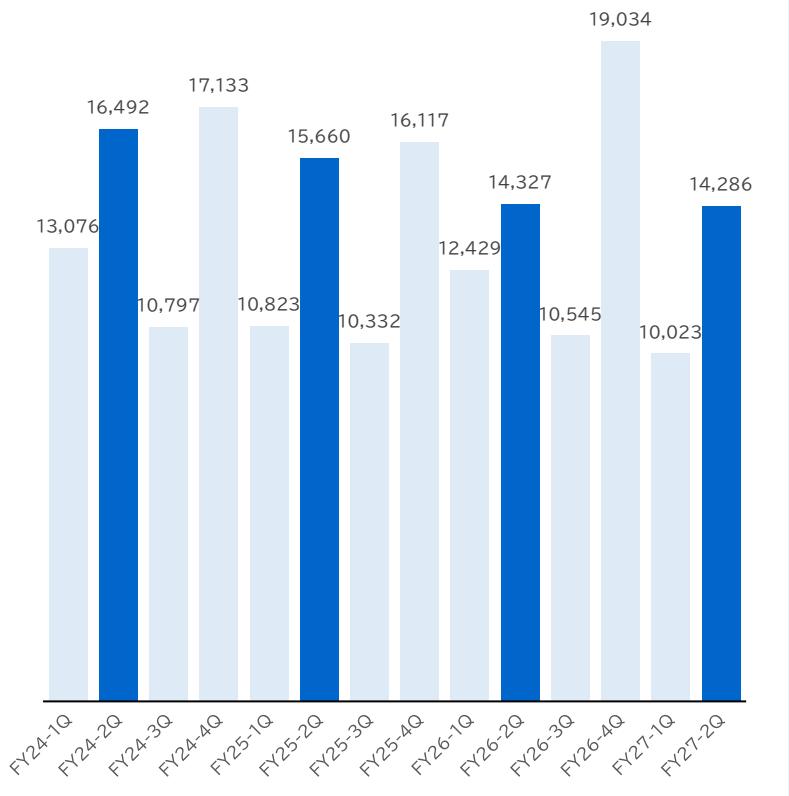
連結業績サマリー（四半期毎の売上高・営業利益）

KATO
進化の奥の更なる真価へ

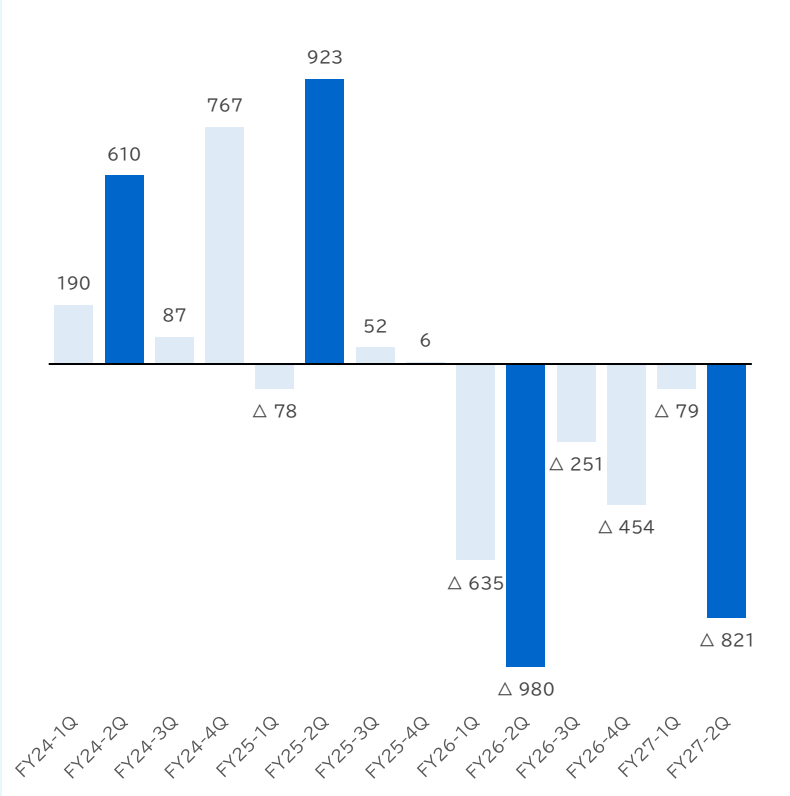
（単位：百万円）

✓**季節性**：2・4Qに売上が集中する傾向

売上高



営業利益



連結損益計算書

KATO
進化の奥の更なる真価へ

（単位：百万円）

	FY26-2Q		FY27-2Q		前年同期比	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
売上高	**26,756**	**100.0%**	**24,309**	**100.0%**	**△ 2,447**	**△9.1%**
売上原価	24,386	91.1%	21,533	88.6%	△ 2,852	△11.7%
売上総利益	2,370	8.9%	2,775	11.4%	405	17.1%
販管費	3,985	14.9%	3,676	15.1%	△ 309	△7.8%
営業利益	**△ 1,615**	**△6.0%**	**△ 900**	**△3.7%**	**714**	-
営業外損益	94	0.4%	△ 91	△0.4%	△ 185	-
経常利益	**△ 1,520**	**△5.7%**	**△ 991**	**△4.1%**	**529**	-
特別損益	△ 3	0.0%	386	1.6%	389	-
税前利益	△ 1,523	△5.7%	△ 604	△2.5%	919	-
法人税等	58	0.2%	63	0.3%	5	8.7%
非支配株主当期純利益	△ 9	0.0%	0	0.0%	9	-
親会社株主当期純利益	**△ 1,573**	**△5.9%**	**△ 668**	**△2.7%**	**904**	-

✓**売上高**：中国事業撤退によりFY26に計上していた中国事業の売上が剥落
国内売上高も減収し△9.1%

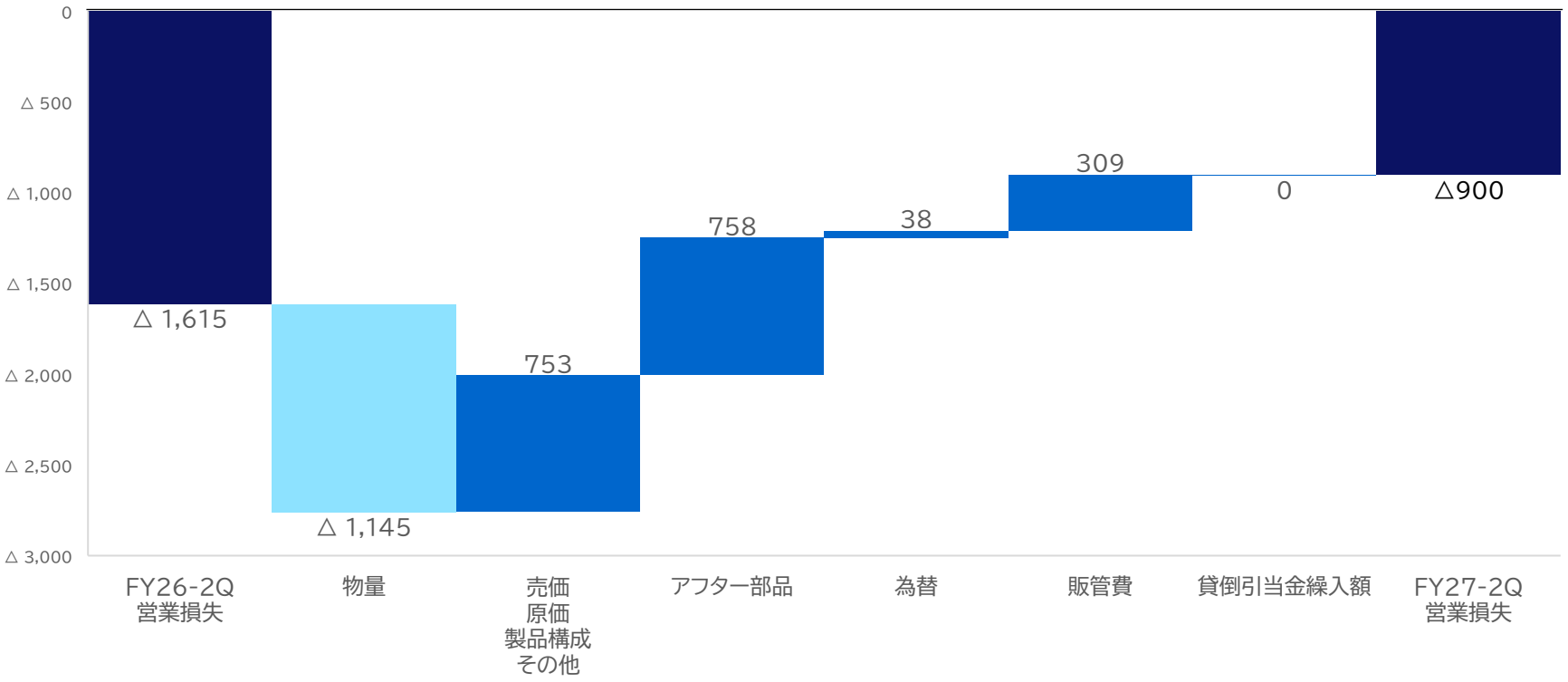
✓**原価率**：91.1% → 88.6%（2.5ポイント改善）利益率が高い補用部品の販売強化を行うなど前年同期比改善

✓**特別損益**：中国事業撤退により、子会社株式売却益393百万円を計上

営業損益の増減分析

KATO
進化の奥の更なる真価へ

（単位：百万円）



・物量	△1,145
・売価/原価/製品構成/その他	753
・アフター部品	758
・為替	38
・販管費	309
・貸倒引当金繰入額	0

△900

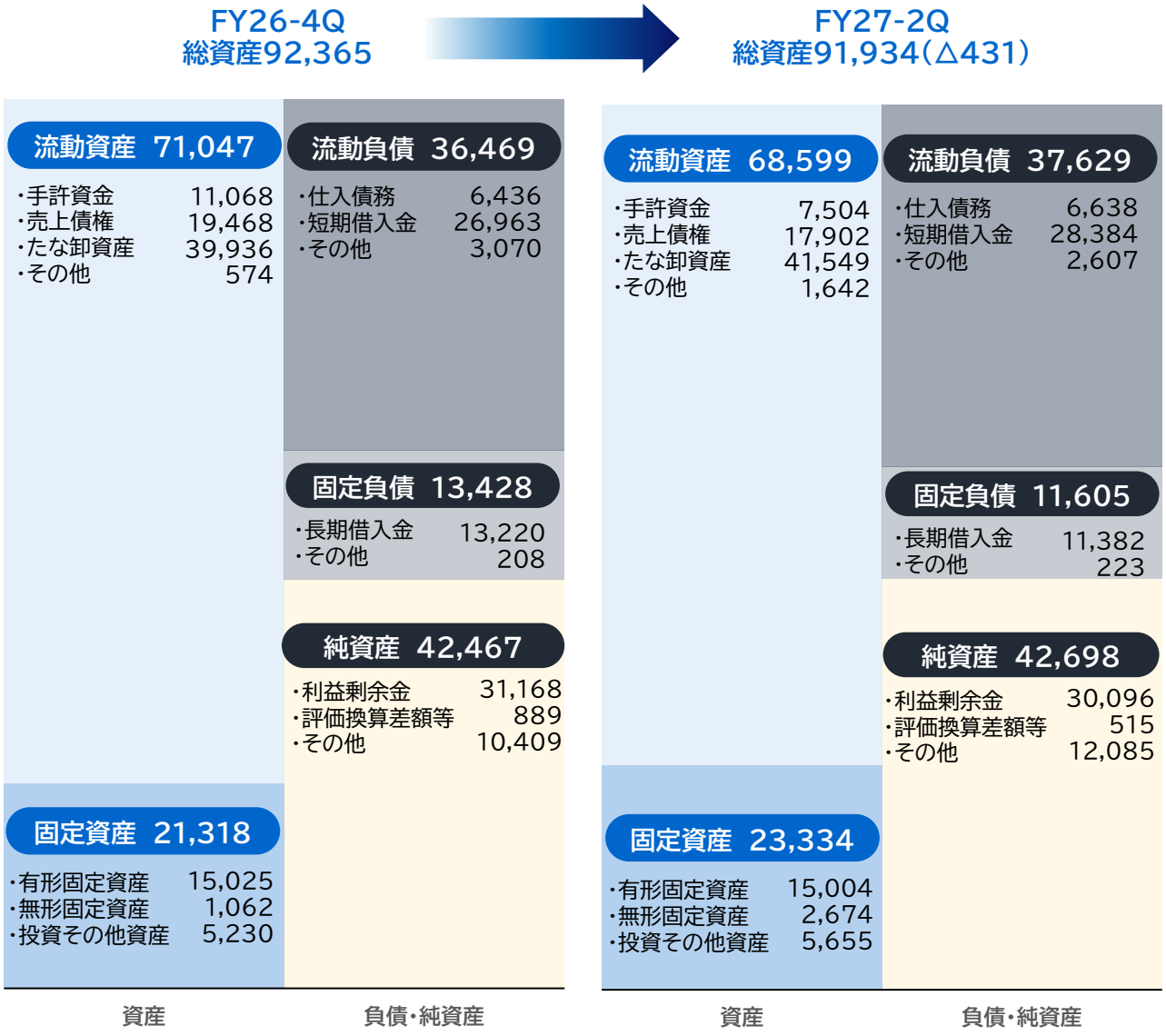
前年同期比 ↗ +715

国内での販売台数が落ち込んだものの、利益率が高い補用部品の販売強化をすすめたこと等により
前年同期比で営業損失は縮小

連結貸借対照表

KATO
進化の奥の更なる真価へ

（単位：百万円）



✓売上債権 ※
- ・日本 18,490 → 17,657
- ・欧州 2,915 → 2,957
- ・その他 122 → 0

✓たな卸資産 ※
- ・日本 36,771 → 37,657
- ・欧州 3,297 → 3,527
- ・その他 11 → 0

※連結修正前の参考数値であり
貸借対照表の数値と一致いたしません

✓無形固定資産
インドでの事業開始に伴い、
のれん1,665を計上

在庫水準適正化に向けた施策は
推進中

✓負債
短期借入金は増加
長期借入金は減少

✓純資産比率
44.7%と財務健全性は維持

連結キャッシュフロー計算書

KATO
進化の奥の更なる真価へ

（単位：百万円）

		FY26-2Q	FY27-2Q
		金額	金額
営業キャッシュフロー	税前利益	△ 1,523	△ 604
	減価償却費	837	808
	売上債権増減額	△ 1,042	1,514
	たな卸資産増減額	3,667	△ 1,283
	仕入債務増減額	△ 430	22
	その他	1,127	△ 1,840
	営業キャッシュフロー計	**2,635**	**△ 1,383**
投資キャッシュフロー	固定資産取得	△ 697	△ 496
	その他	266	△ 892
	投資キャッシュフロー計	**△ 430**	**△ 1,388**
財務キャッシュフロー	有利子負債増減額	△ 3,734	△ 437
	その他	△ 936	△ 343
	財務キャッシュフロー計	**△ 4,671**	**△ 780**
増減額	換算差額	52	△ 10
	増減額計	**△ 2,414**	**△ 3,563**
現金及び現金同等物の期首残高		**14,763**	**11,068**
現金及び現金同等物の期末残高		**12,349**	**7,504**

営業CF

下期販売推進に向け
たな卸資産は一時的に増加

投資CF

中国子会社の連結除外
インド合弁会社への出資　など

財務CF

短期借入金は増加
長期借入金は減少

現金及び現金同等物

期首11,068
→期末7,504に減少

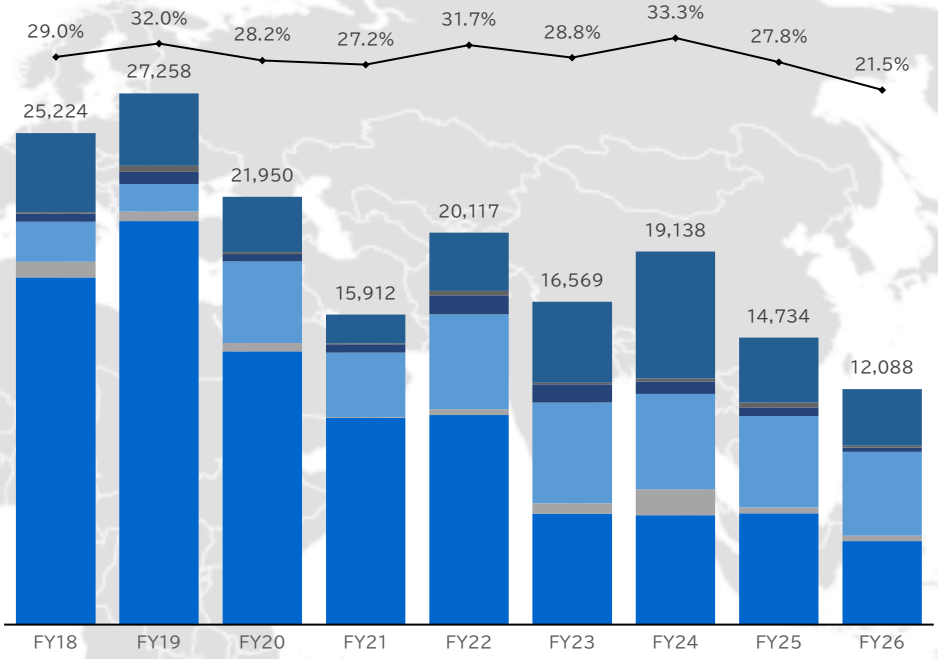
仕向け地別売上高推移(日本除く)

KATO
進化の奥の更なる真価へ

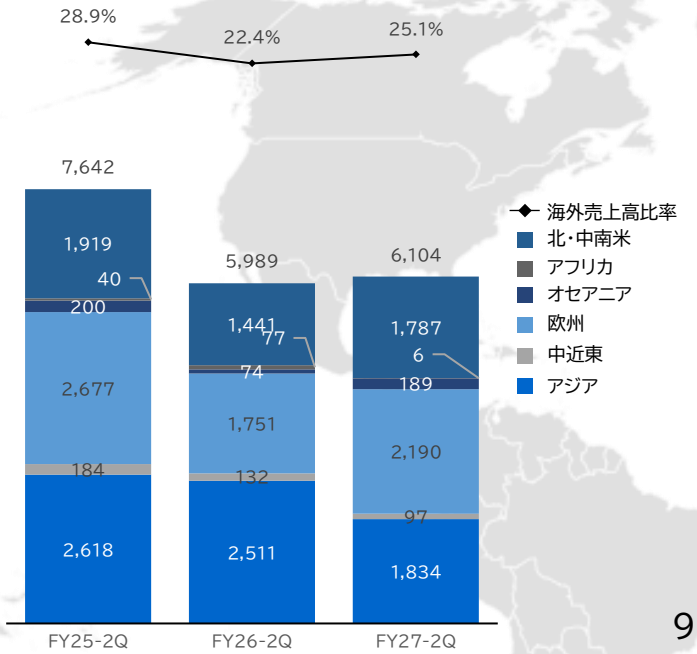
(単位:百万円)

	FY25-2Q		FY26-2Q		FY27-2Q		前年同期比		総売上高構成比
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
アジア	2,618	34.3%	2,511	41.9%	1,834	30.1%	△ 676	△26.9%	7.5%
中近東	184	2.4%	132	2.2%	97	1.6%	△ 35	△26.8%	0.4%
欧州	2,677	35.0%	1,751	29.2%	2,190	35.9%	438	25.0%	9.0%
オセアニア	200	2.6%	74	1.3%	189	3.1%	114	152.2%	0.8%
アフリカ	40	0.5%	77	1.3%	6	0.1%	△ 71	△92.0%	0.0%
北・中南米	1,919	25.1%	1,441	24.1%	1,787	29.3%	345	24.0%	7.4%
海外売上高合計	**7,642**	**100.0%**	**5,989**	**100.0%**	**6,104**	**100.0%**	**114**	**1.9%**	**25.1%**

長期年間推移



直近四半期推移



仕向け地別売上高推移(日本除く)

KATO
進化の奥の更なる真価へ

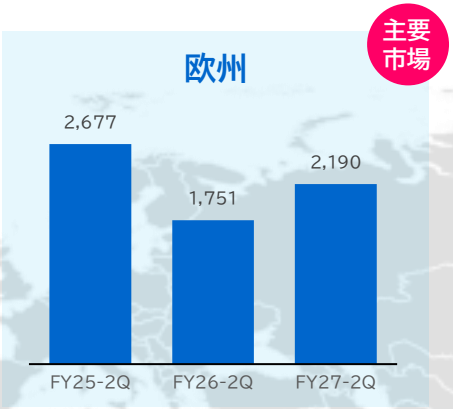
(単位:百万円)

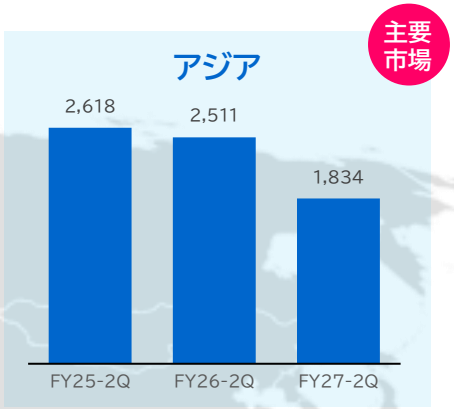
海外市場における現状の取り組み

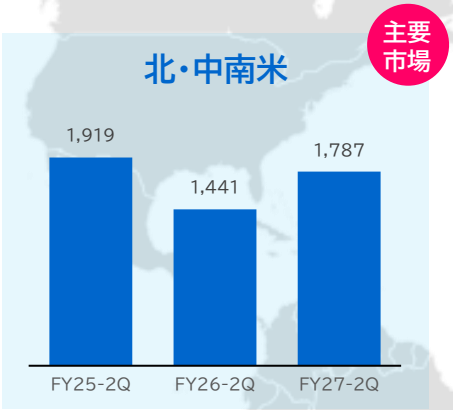
✓**北・中南米**:関税影響が一段落し、米国向け販売は回復傾向

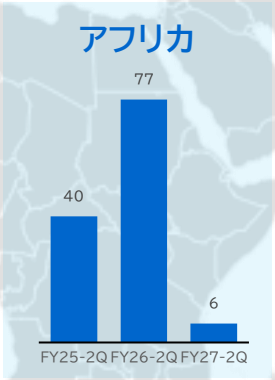
✓**欧州**:主要市場での需要は回復傾向

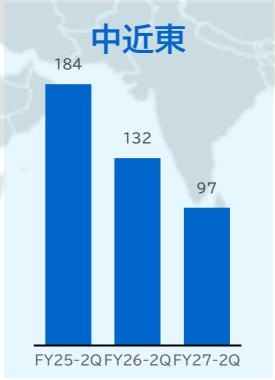
✓**アジア**:インドに現地企業との合弁会社を設立し、下期から売上計上を開始予定

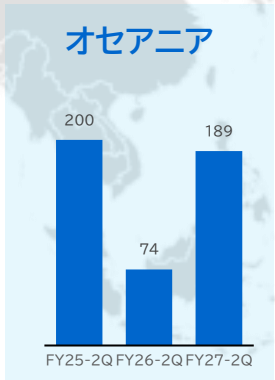










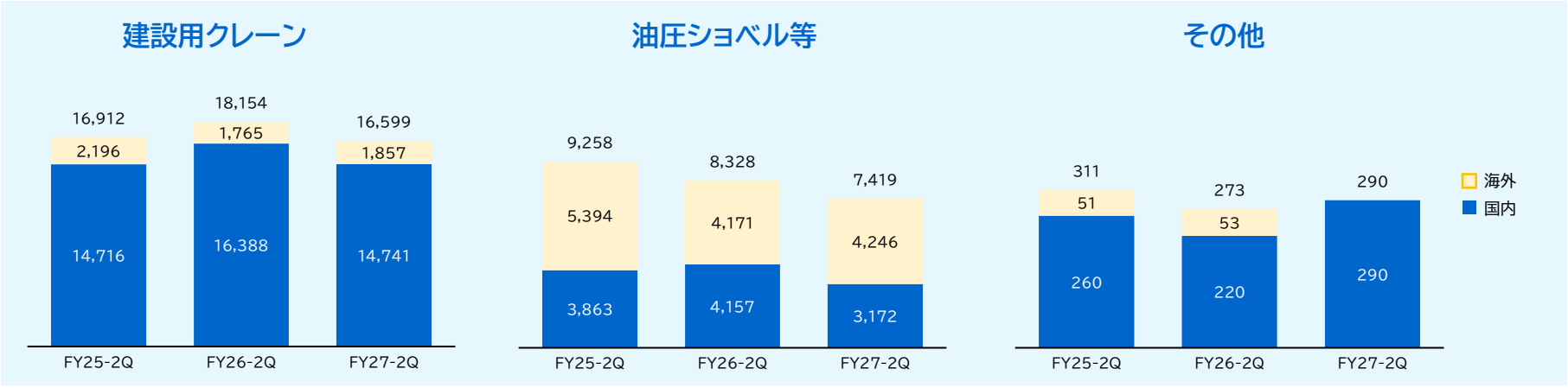


主要品目別売上高推移

KATO
進化の奥の更なる真価へ

（単位：百万円）

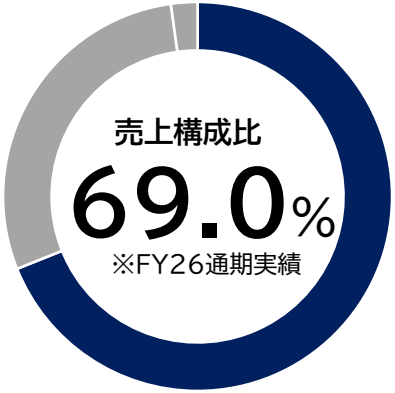
	FY25-2Q		FY26-2Q		FY27-2Q		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
建設用クレーン								
国内売上高	14,716	55.6%	16,388	61.3%	14,741	60.6%	△ 1,647	△10.1%
海外売上高	2,196	8.3%	1,765	6.7%	1,857	7.7%	92	5.2%
計	**16,912**	**63.9%**	**18,154**	**67.9%**	**16,599**	**68.3%**	**△ 1,554**	**△8.6%**
油圧ショベル等								
国内売上高	3,863	14.6%	4,157	15.5%	3,172	13.1%	△ 984	△23.7%
海外売上高	5,394	20.3%	4,171	15.5%	4,246	17.4%	75	1.8%
計	**9,258**	**35.0%**	**8,328**	**31.1%**	**7,419**	**30.5%**	**△ 908**	**△10.9%**
その他								
国内売上高	260	1.0%	220	0.8%	290	1.2%	69	31.7%
海外売上高	51	0.2%	53	0.1%	-	-	△ 53	△100.0%
計	**311**	**1.2%**	**273**	**1.0%**	**290**	**1.2%**	**16**	**6.0%**
合計								
国内売上高合計	18,840	71.1%	20,766	77.6%	18,204	74.9%	△ 2,561	△12.3%
海外売上高合計	7,642	28.9%	5,989	22.4%	6,104	25.1%	114	1.9%
計	**26,483**	**100.0%**	**26,756**	**100.0%**	**24,309**	**100.0%**	**△ 2,447**	**△9.1%**



主要品目紹介

KATO
進化の奥の更なる真価へ

建設用クレーン



ラインナップ

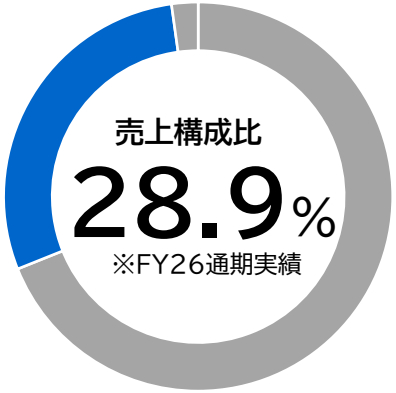


✓ラフテレーンクレーン※車両運転席クレーン操縦席一体型
✓オールテレーンクレーン※車両運転席クレーン操縦席分離型
✓クローラクレーン
など幅広い移動式建設用クレーンを製造・販売

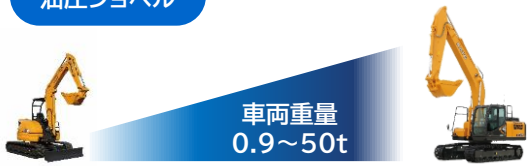
用途

✓インフラ、ビル、住宅の建設現場などで使用

油圧ショベル等



油圧ショベル



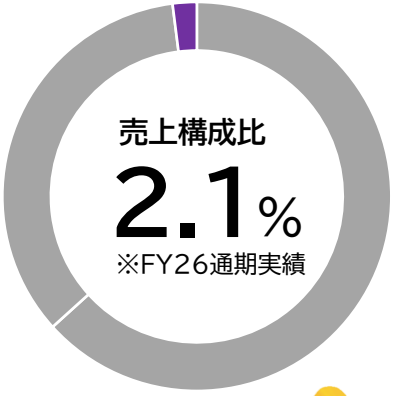
✓ミニショベル（車両重量0.9～10t）
✓中大型ショベル（車両重量8～50t）
まで幅広く製造・販売
✓建設地の造成や建築物の解体などに使用

クローラキャリア



✓インフラ整備、土木工事、災害地など不整地での資材運搬に使用

その他



路面清掃車



万能吸引車



スノースイーパ



✓販売先は公的機関や空港など
売上構成比は低いものの、競合少なく
幅広い特装車を製造・販売

FY27通期連結業績予想

KATO
進化の奥の更なる真価へ

（単位：百万円）

		2026年3月期	2027年3月期（予想）	
		金額	金額	増減率
売上高		56,335	61,000	8.3%
営業利益		△ 2,320	600	―
経常利益		△ 1,841	120	―
当期純利益		4,526	0	―
1株当たり配当金	中間	35円	35円	
	期末	35円	35円	
	年間	70円	70円	

✓当中間連結会計期間は営業損失が継続しましたが、費用面での抑制などにより、
赤字幅は前年同期比で縮小しました。
下期は例年、国内建設機械需要が増加することに加え、販売価格の適正化や営業面の施策、
経費節減の効果が順次表れることを見込み、2026年5月14日に公表した通期連結業績予想は
据え置いております。

TOPICS

インド合弁会社「ACE KATO Pvt. Ltd.」正式発足・事業開始

KATO
進化の奥の更なる真価へ

合弁会社の正式発足と事業開始

・インドのAction Construction Equipment Ltd.（ACE社）との合弁会社「ACE KATO Pvt. Ltd.」の設立登記および各種手続きが完了し、正式発足
・ACE社の既存の生産基盤を活用し、インド国内および海外市場向けの移動式クレーン事業を開始

合弁会社の概要

会 社 名：ACE KATO Pvt. Ltd.
資 本 金：364百万円/当社とACE 社の共同出資 （当社出資比率50%）
所 在 地：インド共和国 ハリヤナ州
事業内容：移動式クレーンの生産 （トラッククレーン、クローラクレーン、ラフテレーンクレーン）

今後の事業展開と業績への影響

・ACE社の生産基盤と当社の技術力・製品開発力を融合し、価格・性能の両面で競争力のある製品を展開
・将来的にはインド国内に加え、アジア・中東周辺諸国などでの市場拡大と新規顧客の開拓を目指す
・操業開始後、順次売上を計上し、2027年3月期以降の連結業績に寄与する見込み
・本事業による収益見込みは、2026年5月14日公表の2027年3月期連結業績予想に織り込み済み

※2026年11月12日開示

TOPICS

220t吊りオールテレーンクレーン※ KA-2200R 販売開始

KATO
進化の奥の更なる真価へ

※車両運転席クレーン操縦席分離型



特長

★キャリヤエンジンに最新の排出ガス規制（欧州Stage V）に適合したDaimler製エンジンを新搭載
★側方衝突警報装置を新規標準装備
★国土交通省「超低騒音型建設機械」の指定を取得

希望販売価格

422百万円(税別)より

発売日

2026年9月

販売目標

4台 / 年

※2026年9月7日プレスリリース

KATO 株式会社 加藤製作所

お問い合わせ先
コーポレートコミュニケーション部
〒140-0011 東京都品川区東大井1-9-37
E-Mail : ir-kato@kato-works.co.jp

注意事項

本資料に記載されている現在の計画や今後の見通しに関する内容につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて、計画・予想したものであります。

実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。そのため本資料におきましては、その実現を確約あるいは保証するものではございません。